

北海道南幌高等学校

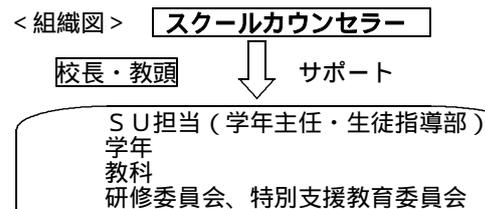
課程 全日制
学科 普通科
生徒数 159名

1 取組の特徴

1年目は教員の研修に重点を置き、外部のスクールカウンセラー等を活用し、講義や演習を受け、知識や手法を習得する。2年目は主に新入生を対象に本プログラムを実践する。

2 取組のねらい

コミュニケーション能力が身に付いていない生徒が多く、友人関係のトラブルも多いことから、学級集団作りや良好な人間関係を築き、目標を持って、意欲的な学校生活を過ごさせる。



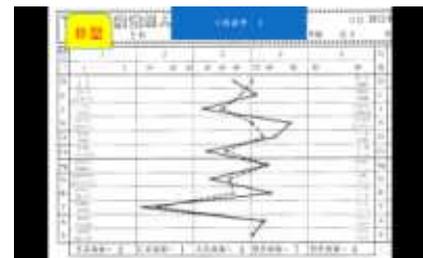
3 取組の経過

6月	ステップアップ・プログラム計画作成	11月	校内研修会 「特別支援教育に関する相談について」
7月	校内研修会 「生徒理解と集団作りを目指して」	12月	子ども理解支援ツール「ほっと」実施 (対象：1年生)
9月	校内研修会 「SGE、ピア・サポート、 アサーションとは」	1月	校内研修会 「発達障害のある生徒への 支援について」
10月	特別支援教育に関する相談		宿泊研修(道立青年の家)

4 取組の内容

1 校内研修会

- (1) 日時 平成24年7月5日(木)
- (2) 講師 北翔大学非常勤講師 川村 道夫 氏
- (3) テーマ 生徒理解と集団作りを目指して
～ YG検査の分析と指導方法について～
- (4) 内容 1年生を対象に実施しているYG検査の結果を過去の生徒と対比しながら分類型ごとの見方について確認した。また、教師が観察して得た情報と検査結果との間にズレがある場合には、生徒の中にそのような傾向が潜んでいるのか、あるいは教師自身の中に歪みがあるのかなど、その理由を解明する必要があるとの助言があった。



4 取組の内容

2 校内研修会

- (1) 日 時 平成24年9月20日(木)
- (2) 講 師 スクールカウンセラー 川村 道夫 氏
- (3) テーマ SGE、ピア・サポート、アサーションとは
- (4) 内 容 教育相談の技法の説明を聞きながら、自己紹介の方法や輪になってコミュニケーションを深める方法など、基礎的なエクササイズを学んだ。また、生徒に語りかける時の声のかけ方や教師の立ち位置や姿勢等の在り方について理解を深めた。



3 校内研修会

- (1) 日 時 平成25年1月18日(金)
- (2) 講 師 北海道南幌養護学校教諭 中島 雅子 氏
- (3) テーマ 発達障害のある生徒への支援について
- (4) 内 容 本校のパートナーティーチャーである北海道南幌養護学校高等部の中島先生を講師にADHD、PDD、LDの障がい特性と具体的な対応事例を学んだ。特別な支援を必要としている生徒は「困った子」ではなく、「困っている子」として理解し、適切な環境を作り、その子自身の力を高めるという考え方に立つことが必要であるとの助言があった。



4 宿泊研修(道立青年の家【深川市】)

- (1) 日 時 平成25年1月30日(水)
- (2) 講 師 国立日高青少年の家次長 服部 和樹 氏
- (3) テーマ ピア・サポートトレーニング
- (4) 内 容 「苦手なタイプの人」というアンケートに答え、望ましい人間関係の在り方を学んだ。次に、各自が自由に選んだ飴玉の種類ごとにグループを作り乾燥パスタとマシュマロでタワーの高さを競う「マシュマロチャレンジ」に取り組んだ。ゲームを通じて、思いやりや助け合いの大切さを学んだ。



5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
本年度は、変化がなかった。
- (2) その他の指標による評価
欠席日数と保健室の利用者数が減少した。
- (3) 子ども理解支援ツール「ほっと」実施により、把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況を調べた。
- (4) 生徒の変容した姿
自主的に相談を求める生徒が増えた。

2 課題

- (1) 1年生に対する集団形成への取り組みを早めに行う必要がある。
- (2) 教育相談の内容を充実させるための教員向け研修を充実させる必要がある。
- (3) 個々の生徒への相談回数を増やす必要がある。

3 次年度に向けて

- (1) 宿泊研修において、ピア・サポートトレーニングを実施したが、時期が1月と遅かったことから、宿泊研修の実施時期を検討する。
- (2) ピア・サポート、SGEなどの教育相談手法を実践する。
- (3) 学級集団と個人の状態について標準化されたデータをもとに分析し集団づくりすすめるために、YG性格検査をHyper QU検査に変更する。